

令和元年度鹿児島県茶品評会及び経営改善コンクール審査結果

(公社)鹿児島県茶業会議所

令和元年9月6日

1 審査日程

日時 令和元年9月4日, 9月5日

場所 鹿児島県茶市場

2 茶業品評会の区分及び審査項目

県内で令和元年度に生産された一番茶の荒茶について、下記の部門で審査した。

(1) 茶品評会

普通煎茶及び深蒸し煎茶の区分で、それぞれについて外観、水色、香気、滋味を審査した。

(2) 茶経営改善コンクール

上記(1)の項目のほかに、市場性、経営調査票、経営確認調査の項目を加えて審査した。

3 出品点数

(1) 茶品評会 普通煎茶の部：107点(15市町) 深蒸し煎茶の部：109点(7市町)

(2) 茶経営改善コンクール 38点(8市町)

4 審査員

県農業開発総合センター茶業部の徳田明彦部長を審査長に、県経済農協連、県茶商協など14名の審査員により審査した。

5 審査結果

(1) 茶品評会

普通煎茶の部、深蒸し煎茶の部ごとに一等8名のほか、二等及び三等の入賞者を決定した。

普通煎茶の部 一等1位：古屋 純次(南九州市)

深蒸し煎茶の部 一等1位：徳田製茶(鹿屋市)

(2) 茶経営改善コンクール

最優秀賞1名のほか、優秀賞及び優良賞を決定した。

最優秀賞：飯伏 英夫(南九州市)

(3) (1)、(2)の入賞者へ茶業会議所会頭賞を贈る。

6 特別賞

一等1位と最優秀賞の3名へ農林水産大臣賞が贈られるほか、一等及び優秀賞の入賞者各7名へ特別賞が贈られる。

7 産地賞

各部門の市町村単位の入賞者上位5点の合計点により競う。

(1) 茶品評会

普通煎茶：南九州市

深蒸し煎茶：錦江町

(2) 茶経営改善コンクール

志布志市

8 審査概要

令和元年産一番茶については、1月から3月の気温が高めに推移し、平年より生育が早まるものと思われたが、3月下旬から4月上旬にかけて冷え込む日が続き、芽の伸びが抑えられ、摘採時期の判断が難しい状況の中で始まった。

このような中、出品された茶は良品揃いで、生産者や関係者の茶生産に対する熱意と技術の高さが窺えた。

(1) 茶品評会

ア 普通煎茶の部

上位から中位までは品質格差が小さく、レベルの高いものであった。特に、上位は新鮮な若芽を丁寧に製造した細よれで艶のある外観で、すがすがしい香りとうま味を感じさせる秀品揃いで、本県の技術レベルの高さを象徴したものであった。

南九州市は上位を多数占め、3年連続で産地賞を受賞した。

イ 深蒸し煎茶の部

上位から中位は、本県の深蒸し煎茶の特徴である黄色みをおびた鮮緑色で冴えのある外観で、濃厚なうま味を感じさせるものだった。

錦江町は上位に多数入賞し、2年連続で産地賞を受賞した。

(2) 茶経営改善コンクール

上位の入賞者は、本県の特徴である機械化体系を効果的に導入し、安全・安心な茶づくりに努め、安定した経営管理を行っており、茶の品質や市場評価についても高いものがあった。

志布志市は上位を多数占め、2年連続で産地賞を受賞した。